



# 日本聖公会婦人会 2024年2月20日発行 ニュースレター No.77

〒297-0032 千葉県茂原市東茂原 10-192 永井眞由美方

電話/FAX 0475-24-6915

## 「大丈夫であるように」

感謝箱献金事務局 (コア) チャプレン  
司祭 アントニオ 出口 崇

新しい一年が皆様にとって豊かなものであることを祈ります。

今年の元日に能登半島地震が発生し、不安や悲しみの中にある人たちがたくさんおられます。悲しみ、不安の中におられる方々に神様の慰め、癒しが与えられますように、また私たち一人ひとりが出来ることを考えていけますように。

私の祖母は他教派の熱心なクリスチャンで、お祈りがとても長い人でした。特に年齢を重ねて、いろいろな物事を忘れて、こだわるようになってからは、更に長くなっていました。

食前のお祈りも多く、祈り、「子たち、孫たち、ひ孫たち…」しばらく別のことを祈った後にまた「子たち、孫たち、ひ孫たち…」終わらない一と思っていると、娘である叔母が「このお祈りを…」と強制的に終了する。そんな日常がありました。色々なことを忘れていくが、祈ることは忘れない。果たして自分はそこまで祈っているか、その年齢になった頃にしっかりと祈っているか。今でもふと思出し考えます。

お祈りすること、神様の助けを求めることが、私たちの周りでは溢れています。毎週の礼拝で「戦争、災害の中で不安、悲しみの中にある方々」のためにお祈りをしている教会は多いと思いますが、「ことに——」と特定の地域や人々について覚えて祈る対象が増え続けている。新しい悲しい出来事が世界各地に起こり続け、どこも状況が良くなっていないけれども忘れ去られていく。以前からそうであったのかもしれませんが、ここ数年、そのことを特に実感しています。

だいぶ前に「大丈夫であるように」というタイトルの映画を見ました。あるミュージシャンのドキュメンタリーでしたが、自分の周りで起きている様々な不条理に直面し、そこで傷ついている自分自身や周りの人たちに対して、「大丈夫」とは、その本人が思うものであって、ほかの人が言うことは出来ない。しかし、「大丈夫であるように」と願うことは出来る。大丈夫にしてあげることは出来ないけど、「大丈夫であるように」とはいつも思っている。というようなことを言っていました。

私たちが周りの人や自分自身に対して「大丈夫」という確証を与えることはできません。状況を変える、不安を取り除く直接的な力は私たちにはありません。だから「大丈夫であるように」と祈り、また関わります。

同じく私たちは罪を赦すことも、恵みを与えることもできません。「大丈夫」「赦された」言い切ることが出来るのはイエス様だけであり、私たちは「そうなりますように」と恵みを求めることしか出来ません。

この一年も、私たち一人一人に、そして私たちが関わる全ての人たちにイエス様が寄り添ってくださいますように。



## 2023年 日本聖公会宣教協議会に参加して

日本聖公会婦人会 会長 永井眞由美

2023年11月10～13日、山梨県清里・清泉寮にて2023年日本聖公会宣教協議会が開催され、参加する機会を与えられました。

「いのち、尊厳限りないもの～となりびととなるために～」のテーマのもと、リモート配信や録画を通して沖縄教区、九州教区、東北教区の小さな教会の物語を伺いました。また、幼児教育に携わる方、信仰とセクシュアリティを考えるキリスト者の会代表・日本基督教団牧師、カルト問題に関わる日本基督教団牧師、聖路加国際病院非常勤チャプレンの英国国教会司祭、ホームレス支援活動に携わる九州教区司祭の5名の方の経験を通じた「いのちの現場」からのお話をお聴きしました。主教会からのメッセージでは10名の主教様方のそれぞれの熱い思いをお聴きしました。宣教協働区アワーでは東日本、中日本、西日本に分かれ話し合われました。また、改訂が進められている日本聖公会祈祷書の説明、進捗状況のご報告もありました。

各教区、管区委員会、諸団体から立場も年齢も異なった130余名の方々が集い、それぞれが「実り持ち寄りブース」を設け紹介があり、また各ブースを巡り、特色ある取り組みについて直接お聴きする事ができました。楽しいミニバザーもありました。



日本聖公会婦人会の展示ブース

日本聖公会婦人会もブースを設置、感謝箱献金の歴史と2023年度お献げ先をパネル展示し、「ニュースレター76号」「ガリラヤのほとり40号」「2023年度ハンドブック」を参加者全員に配布し日本聖公会婦人会の働きをアピール致しました。

「宣教」をととても難しくとらえておりましたが、神さまはいつも私たちに招いて、共にいて下さいます。日々の暮らしの中でそのことを忘れず、お招きにお応えしていけたらと思いました。

盛りだくさんの4日間、疲労困憊でしたがグループシェアリング、バイブルシェアリング、中日本グループでの話し合いを通して多くの方々と親しく交流を持ち、多彩なお考えに触れる事が出来ました。主に感謝!!

## 2023年度被献日献金活用実施報告

### <神学生枠>

聖公会神学院 1年生

聖職候補生 アンデレ 川島 創士 (中部教区)

日本聖公会婦人会のお支えに感謝して  
+主のみ名を賛美いたします。

婦人会の皆様の日頃のお祈りとご支援に感謝いたします。また、この度は皆様からの被献日献金で授業で使う書籍を購入させていただくことができました。心より感謝申し上げます。以下、購入した書籍の紹

介をさせていただきます。まず、一冊目は D. ボッシュ著『宣教のパラダイム転換』の上・下巻です。これは、総合ゼミという授業で使用するもので、「宣教」ということを深く考える際に非常に有益なものでした。今年は宣教協議会にスチュワードとして参加させていただきました。

「宣教」について多角的にみる視点が、これからの宣教を考える際に必要になると感じさせられました。その協議会でも本書からインスピレーションを受けることが多々ありました。

二冊目は、池田裕著『総説 旧約聖書』です。これは旧約聖書入門で使用しました。学部の際にすでに聖書の基礎科目は履修しておりましたが、神学校に来て改めて聖書をじっくり読み、その神学や歴史的な背景を踏まえながら、総合的なバランスのとれた理解をするように心がけております。その際に、本書を参照することが非常に多く、学びを助けてくれております。

三冊目は、J. F. ホワイト著『キリスト教礼拝の歴史』です。これは、礼拝関連の授業で使用しております。私たちに馴染み深い『祈祷書』ですが、その成立の歴史や神学の蓄積は膨大であり、なかなか骨の折れる学問です。それに、本だけを読んでいても、その深みを感じることは難しいと思います。その点、神学校では基本的に毎日礼拝があります。その中で、実際に『祈祷書』を開き礼拝を行うことで、授業で学んだことを身をもって感じるすることができます。教会歴がもつ季節毎の信仰的な流れの中で、祈祷書で礼拝をすることの意味を日々感じ取っております。

皆様のお支えに心から感謝しつつ、これからも学びと祈りの生活を続けて参りたいと存じます。最後になりましたが、日本聖公会婦人会のお働きと皆様お一人おひとりの上に、神様の豊かな祝福がありますようにお祈り申し上げます。



ウィリアムス神学館 2年生  
ヴェロニカ 薦田久美子 (大阪教区)

主の平和がありますように

いつもお支えとお祈りをありがとうございます。心から感謝いたします。

今回購入していただいた図書についてご報告いたします。

#### 1. Interlinear Bible: Hebrew, Greek, English

新約聖書釈義をする時によく使わせていただいています。一言にギリシア語聖書と呼ばれていても使われている単語が違う場合があるので、疑問に思った箇所は4番の The Greek New Testament と併用し、比較をするようにしています。けれども自分で解決できるケースは多くなく、指導教授に伝えて説明していただいています。

#### 2. The Oxford Dictionary of the Christian Church

日本語で書かれた辞書でニュアンスが分かりにくい場合、または説明が短か過ぎたり記載されていない場合に使わせていただいています。

内容によっては非常に説明が長く詳しいので圧倒される場合がありますが、学生の頃から紙の辞書が好きで、調べるべき項目以外の箇所を読むことも楽しいです。アングリカンチャーチに関する内容も多く含まれていますので、これから益々活用できればと思っています。

#### 3. 旧約聖書神学Ⅱ (フォン・ラート)

旧約聖書担当の教授の薦めで購入していただきましたが、私には内容が非常に難しく理解するのに四苦八苦しています。



課題が出た時はとりあえずこの本を読み、図書館からもう少し容易に理解できるものを借りて理解するように努力はしていますが…。

#### 4. The Greek New Testament 5<sup>th</sup> edition UBS

私がギリシア語聖書を使う日が来るなんて思いもしませんでした。積義や教会実習でお話をさせて頂く時の下調べなどに活用させていただいています。

ギリシア語の授業では先生を質問攻めにするためにまだテキストが終わっていないのですが、3学期からはやっと授業でこの聖書を読み始めることができそうで、楽しみにしています。

これからも皆さまからのご支援を無駄にしないように努力しますので、お祈りいただければ幸いです。

### ウイリアムス神学館 2年生 ステラ・ミシェル 大倉有紀 (大阪教区)

主の御名を賛美します。

この度は尊い献金を賜りましたことを感謝申し上げます。

現在、神学校2年目となりました。今年度は授業と共に、なるだけ神学校の礼拝に出席することを目標としています。入寮していたら経験できる“1日3回、祈りをささげる生活”を、少しでも体感したいと願っている為です。チャペルで静かな気持ちで黙想したり、また礼拝を司式する経験は授業と同じくらい大切であると感じています。実際は子どもがいることでなかなか叶わないことが多いのですが、その分礼拝に出る時間がいかに貴重か学びましたし、一度子供を抱っこ紐で抱えながら跪き、昼の嘆願の司式をさせていただいた経験は非常に良い思い出となりました。神学校残りの時間も、良い祈りの時が持てるよう願っております。



今年度は、The Oxford Dictionary of the Christian Church を購入させていただきました。英国の権威ある辞典シリーズの一つであり、全2冊に渡る大型図書です。個人では求めづらかったのですが(金額面と、英書を活用できるか多少の不安があった為)思い切って申請させていただきました。“英国のキリスト教をバックグラウンドとして編纂された文章”を読むことが、英国国教会の聖職を目指すものとして必要だと感じましたし、和書に限らず英書を活用することで教話や説教などを作成するのに必要な知識が更に増えると考えたからです。この本と共に今後もしっかり学びを続けていきたいと思います。

重ねて、感謝申し上げます。

### ウイリアムス神学館 3年生 クララ 小野恭子 (京都教区)

いつも私たち神学生の事をお支え・お祈りくださり、本当に有難うございます。

またこの度も貴重な「被献日献金」を書籍代として使わせて頂けたことを、心より感謝申し上げます。

頂きました書籍代で、卒業小論文に必要な図書、そして現場に出てからも手元に置きたい書籍を7冊購入させて頂きました。

2021年にウイリアムス神学館に入学が許され、気が付けばあっという間、3年生となりました。入学した時は「3年間か…先は長いな…」と思っていたのですが、この考えは「全く間違っていた」と今は思います。現実を見て恥ずかしいことに「えっ、もう3年生!?(それにしても学力等々が…!)」と、穴を掘ってでもどこかに隠れたい気持ちでいます。

昨年「2年生になると授業内容がぐっと濃くなり…」と報告書に書いた記憶があります。3年生ともなると「授業内容は更に濃くなり」、加えて実践的になります。授業内容の濃さと難しさに頭を抱え、落ち込むこともしばしばですが、実践的なことを学ぶ中でこれからの事を考える上でのヒントを与えられたり、今までの考え方の方向を見直すきっかけを頂いたりすることも多いです。

この文章を読んでいる皆さまをはじめ、色々な所で出会う方々に「頑張っ  
てね!」「お祈りしているから」等励ましの言葉を頂き、更に「もう3年生  
なの?早いわね」と笑顔で言われることも増えてきました。1、2年生の時  
と変わらず、いや、その時以上に私の心は「有難うございます」という感謝  
と嬉しさ、そして今の自分の状態を振り返って「こんな状況で現場に出て行  
って大丈夫なのだろうか…?」という恐れと申し訳なさでいっぱいです。

これまで出会った皆さま、そしてこれから出会う皆さま、何卒宜しくお願  
い致します。



## <教区婦人会枠>

### 東北教区婦人会

東北教区婦人会 前会長 梅津庸子



スコット・ショウ氏

2023年2月23日、第48回東北教区婦人会を、主教座聖堂仙台基督教会で  
開催しました。前年度役員担当県の岩手県(盛岡聖公会)の第47回総会は、  
コロナのために書面決議で行いましたので、よほど困難な状況でない限り対  
面で行いたいと決めたものの、なかなかコロナの終息が見えず、総会開催の  
間際までははらの連続でした。

総会当日は、午前中に開会聖餐式、審議を行い、午後から被献日献金の支  
援を受けて「スコット・ショウ先生のオルガン演奏と聖歌指導」と題してス  
コット・ショウ先生を講師にお迎えし、オルガン演奏、講義「キリスト教徒  
はなぜ歌うのか」、「聖歌を歌う」の3部構成で集まりの時を持ちました。  
コロナ禍の影響が残る中で、参加者は聖職者と婦人会会員の限定とし、約35

名の方々が集まりました。

スコット先生の奏でるオルガンの柔らかな音色に慰めをいただきました。イギリスとアメリカから伝わ  
った聖歌の違い、グレゴリオ聖歌からフォークソングまで網羅された『聖歌集』には、ぎっしりとキリス  
ト教の歴史と内容が含まれていることを教えられました。限られた時間内では到底消化できない豊富な内  
容でした。現在、各教会で賛美が復活されていると思いますが、賛美することがこんなにも素晴らしく、  
また力を得ることを実感されている方が沢山おられると思います。聖歌の背景にある知識を理解することで、より豊かな  
賛美が生まれることを気づかされました。

1年間は、集まることも歌うことも多くの限定された中  
にありましたが、4年ぶりで会員の皆さんと対面し、総会と  
コンサートを開催でき、厳冬期の中で雪による障害もなく、  
無事に予定を終えることができました。かなり小所帯となっ  
た東北教区婦人会ですが、大きな恵みにあずかり、被献日献  
金を有効に用いさせていただきました。感謝申し上げます。

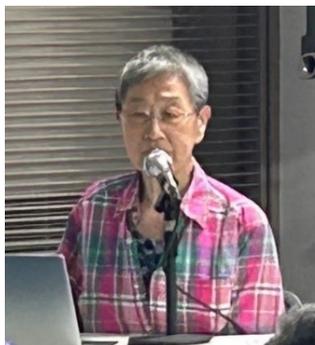


## 横浜教区婦人会

横浜教区婦人会 会長 田中めぐみ

横浜教区婦人会は2022年度と2023年度に被献日献金活用の教区婦人会枠で申請し、合計12万円のご支援をいただきました。感謝いたします。被献日献金は教区婦人会大会(隔年開催)運営のため活用させていただきました。

開催年度に当たる2023年度は、6月27日(火)～28日(水)の一泊二日、4年ぶりに対面での婦人会大会が行われました。参加者は講師、教役者、18教会の女性信徒の方々、役員合わせて56名でした。



北川規美子氏

1日目は14時から開会礼拝後、講師に北川規美子氏(大阪教区聖贖教会信徒)をお迎えし、「ヒルダミッションとナザレ修女会」をテーマに講演が行われました。ヒルダミッションとは明治から昭和にかけて活動していた日本聖公会の女性信徒の伝道団体であり、前後の日本の歴史と照らし合わせて学びました。そして沢山の貴重な写真を映しながら、ヒルダミッションの働きとナザレ修女会との繋がり、またシスターの方々のお働き等を分かりやすくお話しくささいました。ヒルダミッションの働きは伝道、女子教育、福祉と多岐にわたっていることに驚き、その働きが現在まで続いていることを知り、身の引き締まる思いがいたしました。

夕の祈り、記念撮影後、夕食では美味しいお食事をいただきながら各教会の紹介があり楽しい交わりの時を持つことができました。その後の自由時間では5教会の方々の各部屋でミニバザーが行われ、他の参加者が各お部屋に訪問する形となり交流が深まったと思います。

2日目は7時に各部屋で朝の祈り、各自朝食をいただき、10時より司式入江修主教、説教三原一男司祭で聖餐式が行わ



れ、参加者全員陪餐に与りました。信施金はベタニヤ・ホーム大規模修繕のためにお献げしました。

計画当初は新型コロナウイルス感染状況がどうなるか不透明でしたので開催に不安もありましたが、無事に婦人大会を終えることができましたことを感謝しております。

被献日献金は教区婦人会大会運営のため(印刷、郵送料、役員交通費)、講師謝礼、お車代、機材使用料等に使用させていただきました。ありがとうございました。



## 中部教区婦人会

中部教区婦人会 会長 長井登茂子

2019年度、2件の行事のために申請しましたが、台風の影響で1件は中止となり、コロナ禍のためようやく2023年に1件が実施されました。

① 2019年7月21日(日)「長野伝道区 女性の集い」於：松本聖十字教会

講師：西原美香子先生 演題：『女性の活躍の場と教会の宣教、YWCAの働きから』

初めに、YWCAの<sup>いしづえ</sup>礎をお聞きしました。女性の自立を目指して、日本でも女性が自分の言葉で発信したり、労働環境を考えたりする場として活動が広がりゆき、時代の流れと共にその活動は平和への願いが込められた人権運動に変遷してきたとのことでした。



その後、四つのグループに分かれて、課題『ストローのタワーを作る』を体験しました。作る目的が『盛り上がること』であることは極秘として言葉にされないまま取り組み、後でタワーを作る目的を言葉で知らされて、言葉で発信することの重要性を体得できました。

参加者同士がコミュニケーションしながら、楽しく和やかに学び合うことができました。

② 2023年10月28日(土)「長野伝道区女性の集い 合同礼拝・講演会」

於：上田聖ミカエル及諸天使教会 講師：上鹿渡菜穂子先生

礼拝後の講演は上田地域で子育て支援を行っている上鹿渡菜穂子先生に、現在子どもや女性、母親の置かれている状況と里親制度についてお話を聞きました。

現在虐待は2000年の19倍になっている事に心を痛め、虐待を受けている子はすぐ保護されるべきで、周囲の人の無関心をいさめ、子どもの声を聴くことの大切さを痛感しました。児童福祉法の改正により子どもの人権が見直され里親委託が広がってきていることや、社会全体で子どもを育むこと、子どもの最善の利益を考えること、また虐待をなくすため、家族が安心して育てられる環境作り、子育てを孤育てにしない支援が求められていることを学びました。



## 京都教区婦人会

京都教区婦人会 代表 大房和子

新年も主のみ恵みが豊かにありますようお祈りいたします。

能登半島地震で被災された方々に少しでも早く普通の日常が戻りますようお祈りいたします。

京都教区婦人会の事務局は2年毎に伝道区が輪番制で担っています。2023年、2024年は北陸伝道区が担当です。



2023年9月16日に富山で「第121回婦人会大会・第63回信徒の集い」を合同開催し、同日の大会前に「京都教区婦人会代表会」をもちました。婦人会大会と併せて開催したこともあり、教区の端の富山での開催にも関わらず、多くの方に参加していただきました。

遠方での開催となるため、代表者会の開催に当たり交通費補助が増大することが大きな悩みでした。そのため、「被献日献金活用」に「京都教区婦人会代表者会交通費補助」として申請し、承認していただきましたことに本当に感謝しております。

代表者会では、2027年以降の事務局当番についての話し合いをメインにしました。婦人会事務局は2013年から伝道区輪番制になりましたが、高齢化やその他の状況により、そのまま続けていくことが難しくなったためです。

婦人会のこれからの活動を考えるため、代表者会の前に各教会婦人会員の年齢層のアンケートをとりました。結果は『高齢化』という現実が数の上でも明らかになるものでした。代表者会ではこの現実を踏まえ、各教会の現状や意見をいろいろと聞くことができ、婦人会の『これから』を考えるための基となりました。

コロナ禍のため書面決議が続きましたが、久しぶりに会場に集まり顔を合わせ、話し合えたことはとても嬉しいことでした。高齢化等で会員の減少等、各教会や伝道区のきびしい現状を共有し、共に今後の婦人会について考えていこうという思いを新たにできたことに意義があったように思います。



## 大阪教区婦人会

大阪教区婦人会 会長 鈴木久美子



2023年秋の修養会(10月18日)は、2021年に聖堂・牧師館を建て替え、敷地内に博愛社地域小規模施設「つむぎ」を併設された大阪聖三一教会を会場に開催されました。講師として地域小規模施設担当副主任の勝原 駿氏を迎え、児童養護施設における家庭的養育についてお話をお聞きしました。

「つむぎ」では児童6名、職員は5名が交代で住んでおられ、安心安全と家庭的な暮らしを目標に生活しておられます。

日々の生活の支援も大切ですが、施設を出てからの生きていける力をつけていくことの必要性を強く語られました。職員の方々が日々努力され、子どもたちの成長を見守っておられるお働きに感動しました。

また、1923年、大阪教区が設立された同じ年に、「大阪教区婦人会結成大会」が開催され、2023年、教区も婦人会も組織成立100周年を迎えました。2023年11月3日大阪教区主教座聖堂（川口基督教会）にて笹森田鶴主教（北海道教区）を説教者にお招きして、感謝の100年～主と共に喜びをもって歩もう～をテーマに大阪教区婦人会成立100記念聖餐式をささげることができました。笹森主教は説教の中で、大阪教区婦人会成立前からの数えきれない多くの女性たちの物語の積み重ねですとお話下さり、次世代に繋げていきたいと強く思いました。当日は



笹森田鶴主教

永井会長、鷺沢副会長をはじめ他教区婦人会からもご出席下さりありがとうございました。記念誌を各教区に送付しますので、ご覧いただけたら幸いです。

被献日献金をこの二つの事に活用しました。ありがとうございました。



### 大阪教区婦人会成立100周年記念礼拝に参加して

日本聖公会婦人会 副会長 鷺沢和子

去る11月3日、大阪教区婦人会の成立100周年記念礼拝に永井会長と共に参加いたしました。当日は9時台に東京駅を出発、お昼も電車内で済ませ心沸き立つままに駆けつけましたが、慣れない大阪の地下鉄に翻弄され、川の向こうに川口基督教会が見えてきた時はそれはそれはホッとしました。

司式は大阪教区・磯主教様、お説教は北海道教区・笹森田鶴主教様により、厳かな礼拝が執り行われました。100年前という時代が女性にとってどんなに息苦しいものであったか、その時代に隣人のためにまた自らの信仰のために身を削って活動された大先輩たちのお志を思い、熱くなるものがありました。そしてさらに100年の長きにわたり、守り続けてくださったこの活動を絶やしてはならない、伝えていかななくてはとあらためて実感しました。現大阪教区婦人会会長の鈴木久美子姉をはじめ、前日聖婦役員の方々の皆様ほか、たくさんの信徒さんの温かい歓迎をうけ、和やかなティータイムも風のようにすぎ、活気と感動に溢れた会場を後にしました。



## <有志グループ枠>

### 『二つの教会をめぐる石の物語』展を鑑賞して

北関東教区 大宮聖愛教会  
ぶどうの木 石森眞子

市立宇都宮美術館が開館25周年を記念し、2023年2月～4月の企画展として宇都宮市内にある大谷石を用いた歴史的建造物である「カトリック松が峰教会」1932(昭和7)年聖別(設計マックス・ヒンデル)と「日本聖公会宇都宮聖ヨハネ教会」1933(昭和8)年聖別(設計=上林敬吉)をとりあげた展示会を開催した。



宇都宮聖ヨハネ教会とわたしたちの大宮聖愛教会は同一の設計者で、この展示会を担当した学芸員橋本優子氏が事前に来会され、各地を歩き、ご自分の目で確かめ調査・研究されていることを知り、教会でも身近なこととして関心をもつようになった。

3月4日(土)橋本学芸員による「見どころガイド:スライド・レクチャー」開催にあわせ、せっかくなら美術館から聖ヨハネ教会訪問、松が峰教会も見ることができるようマイクロバス利用の鑑賞会を計画、21名の参加を得た。

展示会は(1)教会建築への誘い[日本の近代建築による聖堂の成り立ち]、(2)二人の建築家と二つの教会[ヒンデルの教会建築、上林敬吉とガーディナー、バーガミニらとの接点]、(3)同時代性・近代建築との接点[石、煉瓦、鉄筋コンクリートの使い方など事例紹介]の柱で、写真パネル、設計図面展示、模型、映像などで構成されていた。レクチャーでは聖公会信徒である上林敬吉を「信徒建築家」と表現され、外国人建築家から学んだ技術を生かし、日本のそれぞれの風土にあわせた材料を選び、その教会のニーズにあわせた設計がなされていることがうかがわれた。

帰路、聖ヨハネ教会を訪問し夕の祈りをお捧げした。車窓から松が峰教会を一周眺め大宮へ戻った。また、この日に都合がつかなかった10名をこす信徒が美術館へ足を運んでいる。展示会終了後、聖ヨハネ教会に関する写真パネル、模型は教会へ贈られ小礼拝堂などに飾られていると聞く。

この度はこの学びの企画に対し、貴重な被献日献金から補助をいただきましたことを感謝申し上げます。



## 『国立ハンセン病資料館』を見学して

横浜教区 林間聖バルナバ教会婦人会会長 山崎恵子

日聖婦被献日献金から支援を受けて、2023年11月30日に国立ハンセン病資料館を見学し、東京教区清瀬聖母教会、多磨全生園内聖フランシス聖エリザベツ礼拝堂を訪問しました。

婦人会企画で「国立ハンセン病資料館」見学を、との提案があったのは2023年が明けて、被献日献金活用の申請締切が近づいた頃でした。6月の日聖婦会長会では、すんなりと審査を通ったわけではなかったようです。しかし、地域に療養所を持つ幾つかの教区婦人会会長さんから「ハンセン病問題について知ってほしい、良い企画なので是非進めて下さい。」との意見が出され、承認して頂きました。

既に準備を始めていましたが、ここから本格始動です。有志で準備グループを作り、相談しながら進めました。図書を購入、また資料館図書室から借りて会館にコーナーを作り、自由に閲覧、貸出しました。7月から10月末までの間に5回事前学習会をもちました。内容は、資料館公式YouTubeチャンネルから元患者さんの証言映像を視聴し、林間の片山謙司祭の療養所入居者との交流のお話など聞きました。学習会最終回は映画「あん」を鑑賞しました。交通手段として、高齢者参加を考え中型バスをチャーターしました。

当日の参加は近隣教会の信徒7名を加え20名でした。午前中資料館を見学、清瀬聖母教会に移動し昼食、大森明彦司祭の説明で教会内を見学、昼の祈りをお捧げしました。午後は広大な多磨全生園の中を大森司祭の案内で納骨堂など見学しながら宗教地区にある礼拝堂まで歩きました。礼拝堂では大森司祭から主日聖餐式の様子、最近亡くなられた信徒のお話など伺いました。

参加者の感想は、アンケートに回答する形で纏められ、月報「バルナバ」1月号に掲載されました。偏見、差別、人間の尊厳など、各自深く考えるきっかけになりました。

貴重な学びの機会に被献日献金から支援を頂いたことを深く感謝いたします。



## ＜感謝箱献金事務局（コア） 枠＞

「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。」(ルカ 18:16)

感謝箱献金事務局 運営委員長 井田涼子

被献日献金の申請枠に感謝箱献金事務局の活用枠が設けられています。感謝箱献金の活動の目的や内容を会員・協力者の皆様へお伝えするための研修や講演、訪問等に用いるためです。

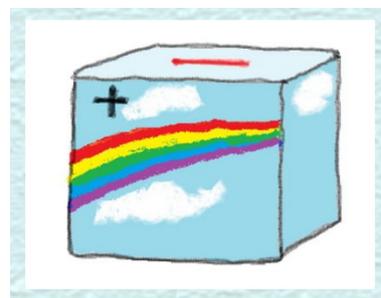
しかし、ここ数年コロナ禍、戦争、人が助け合うべき時になぜ、このようなことが起きるのかといろいろと考えてしまい、動けなくなっていました。

2022年2月、コロナウィルスの世界的な流行が続く中、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、感染がようやく落ち着いてきた2023年10月には、パレスチナ自治区ガザを支配するハマスがイスラエルへ侵攻。

圧倒的な軍事力を持つイスラエル軍の報復攻撃が始まり、ガザ市は爆撃で瓦礫となり、犠牲者は 25000 人以上（多くは女性や子どもたち）、10 月 17 日、エルサレム教区が運営する「アハリ・アラブ病院」も大きな被害を受けました。ガザは狭い地域に人口が密集しており、生活水も食糧品も薬も全てが不足する状況におかれています。今も戦争状態は続いています。

そのような時、25 周年を迎えた国際子ども学校がシンポジウムを開催する記事を目にし『子供の権利条約と入管法』の回に参加したいと思いました。

大人たちが始めた戦争の最大の犠牲者は子どもたちです。「子どもの権利条約」は子どもの生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利を認めています。大人の私たちには子どもの人権を守る責任があります。子どもたちは未来の世界を創り、繋いでいく人たちです。安心して生きられる世界を手渡せるように今、私たちができることは感謝箱献金を用いて、小さな平和を世界に実現していくことです。子どもたちを招かれるイエスキリストの歩みに従いながら。そして、私たちの暮らす日本という国がこれからのどのような道を歩もうとしているのかについても関心を寄せていきましょう。



#### 編集後記

年始から大変な事になってしまいました。被災された皆様の安らぎを、心よりお祈り申し上げます。郵便も値上げ、こちらで利用しているメール便もシステムが変わり役員たちを悩ませています。なるべく金額的にも作業的にも負担が掛からないように考えていますが、作業的には大変です。

日聖婦ホームページの文字はなるべく大きく、単純な操作で見られるように作っています。と、言うか最新の技術は使えないので・・・各教区、お知らせがありましたらご連絡いただければ載せることができます。あまり頻繁には更新しませんが、時々思い出したら見に来てください。

(ホームページ担当 日暮直子)



日本聖公会婦人会のホームページを随時更新しています。  
『ニュースレター』『ガリラヤのほitori』も掲載しています。  
ぜひご覧ください！

<http://www.nskk.org/fujinkai/>



\*ニュースレターNo.76 の、P.7 4行目の「ベタニヤ・ホーム」は、「ヒルダミッションとナザレ修女会」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。